

私たちの活動や意見を平和委員会のなかま たちに伝えます  
私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています



## 2011年国民平和大行進石岡～荒川沖コース 7月9日（土）12時過ぎに亀城公園到着予定

国民平和大行進は東日本大震災の余震が続く中、例年通り5月初旬北海道礼文島を出発しました。いま震災の余塵も片付かない東北コースを歩き続けています。7月1日には北茨城に入り、日立市、水戸市から県西に向かい、筑西市、常総市を経て8日には石岡に到着します。9日の石岡駅前出発は8時半、中貫交差点到着は11時半ころの予定です。今年は土曜日、大勢で迎えましょう。

### あの時 東海第2原発は福島と紙一重

茨城県原発を考える会（中村敏夫会長）発行の「げんぱつ住民運動ニュース」132号によると、原発を考える会の中村敏夫会長ほか日本共産党県議、村議など16人の調査団が日本原電東海事務所を訪れ原発の説明を求めました。

東海第2原発は3月11日の地震直後停電。非常用発電機3台が動き始め、非常用炉心冷却システムが起動した。しかし地震から30分後に高さ5.4メートルの津波が襲い、非常用炉心冷却システム1系統が使えなくなった。地震から7時間後原子炉内の水温は二百数十度、圧力は約67気圧、通常の運転時と同じくらいの状態だった。注水すると水蒸気が発生して圧力が高まる。圧力を下げるため水蒸気を格納容器内に逃がす弁の操作に迫られた。

14日午前外部電源が復旧し、深夜になって非常用炉心冷却システムが動き出し「冷温停止」の状態に至った。電源回復まで綱渡りの3日半であったという。まさに福島第1原発の事故と紙一重の違いしかない。

原電では高さ15メートル級の津波に耐えられる防潮堤の建設を計画しているという。しかし、東海第2原発は運転開始から33年になり老朽化の症状が顕著であり、シュラウドサポート（炉心支持構造物）には40箇所ひび割れを抱えている。調査団はこのような原発が巨大地震や大津波に襲われることは危険極まりないとして廃炉を要求しました。

**冷温停止** 原子炉が100度以下になり安定した状態。菅首相が原発G8において来年1月までに事態を収束させると約束したのはこのことであるが、約束が守れるか注目したい。

**冷却装置** メルトダウンしているという原子炉内の燃料は冷やし続けるしか事態収束の方法はないが、東電は原子炉建屋の外に冷却装置を作る方法を検討している。この外部建屋が再度の地震や津波に襲われることを計算に入れなくてはならない。震度6強以上の耐震強度を持った建屋と配管が必要である。

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています  
平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122  
早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください

私たちの活動や意見を平和委員会のなかま たちに伝えます  
 私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

## 放射線から身を守るために —原発事故緊急学習会—

5月22日つくば桜総合体育館・会議室にて、放射線防護学の専門家の野口邦和先生（日大講師）を迎えて表記学習会が開かれた。その主な内容を紹介します。

### 東電や政府の「防災対策」は

原子力安全委員会は「防災対策を重点的に充実すべき地域の範囲の目安」を原発から約8～10kmとし、その範囲の外側では屋内退避や避難等の防護措置は必要ないとしている。原発立地県の防災対策もこれをもとに作成されている。しかし、今回の事故で避難範囲は半径20km、屋内退避は20～30km圏内まで拡大し「計画的避難区域」とか「緊急時避難準備区域」といった考えまで導入し、退避指示も真夜中や早朝に出すなど避難住民や自治体に一層の不安と混乱を招いている。そもそも風向きなどを無視し単純に同心円で決めること自体が現実とかけ離れている。

### 広がる海洋汚染

高レベル汚染水の放射性核種はヨウ素、セシウムだけではない半減期が長く骨に沈着するストロンチウムやウランによる汚染もある。核種はヨウ素131、セシウム137、セシウム134のみが発表されている。海水から検出されたすべての放射性核種について濃度を公表するように求める必要がある。第1原発から南70kmで捕獲した小女子（コウナゴ）に暫定基準を超える1kg当たり526ベクレルの放射性セシウムが検出されたのは驚いた。海洋汚染は広がっている。

### 野菜、水、土壌汚染

大気中に放出された放射性ヨウ素やセシウムなど風に運ばれ降下し野菜、水、土壌を汚染した。政府は原子力安全委員会の定めた緊急時の「飲食物摂取制限に関する指標」を「暫定規制値」として採用したが、これ以下なら安全だという「安全基準値」ではない。「がまん値」と呼ぶべきだ。被曝線量が低ければ低いほど安全で安心なのはいうまでもない。暫定規制値以下の食品や水であっても可能な限り低濃度のものを選択したい。

### 茨城県での生活は

茨城県のモニタリングシステムは他県と比べ良くできていると思う。これ以上事故が広がらないとすれば茨城県の場合は、洗濯やふとんの干し方、子供のプール、井戸水、野菜など日常生活は今まで通りで問題ない。気になるのであれば放射性核種は髪の毛に付着しやすいので帽子をかぶる、野菜などはよく洗う、ストロンチウム90は骨に堆積するので魚の骨は気をつけるなど。

### 風評被害のとは

風評被害と流言飛語と類似している。（流言飛語の飛びやすさ）は{(事柄の重大性) × (事柄のあいまい性)} に比例するという。今回の原発事故の場合（事柄の重大性）は動かしようがないが、東電や保安院・政府の情報の隠蔽、後だし、御用学者の歯切れの悪い見解などは（事柄のあいまい性）を高め風評被害を増幅する結果になっている。得られた情報を迅速に公表することが風評被害を少なくすることになる。

### 事態を正しく把握し正しく対応するには

その一つとして、きめ細かい汚染マップを作らせる必要がある。それにはモニタリング機器を自治体や学校に購入させ測定させ公表させる運動も大事だ。つくばには研究機関がたくさんあるので測定してもらおうとか。神経質になることはないが正しく恐れることが大事だ。（近藤記）

### 活動ごよみ

|                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 5・22 第3回原発学習会（医療人の会） | 6・8 平和行進土浦実行委（新婦人事務所） |
| 5・29 平和の会総会（4中地区公民館） | 6・11 茨城県平和委大会（青少年会館）  |
| 6・5 2011平和講演会（ワークヒル） | 6・21 平和の会理事会（コープ）     |

平和の会ニュース、平和かわら版（PDF版）配信しています

平和のなかまに伝えたいニュースやご意見を事務局にお寄せください FAXは029-831-9122  
 早い、確実に届くご希望の方はeMailアドレスご連絡ください